年間授業計画 新様式例

高等学校 令和6年度（２学年用） 教科 地理歴史 科目 日本史基礎

教 科： 地理歴史 科 目： 日本史基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： （1・2・3組：八木秀明、3・4・5・・6・7組：湯浅 ）

使用教科書： （ 実教出版 詳述歴史総合 ）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに，調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて構想したり，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について，国家及び社会の形成者として，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

科目 日本史基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界各地域の関連を相互的な視野から捉え，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義，特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとし，多面的・多角的な考察や深い理解を通して，我が国及び他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	『開国』 日米和親条約・日米修好通商条約締結による政局への影響を考え、開港による経済・社会の情勢変化を考える。	教科書のコラムとグラフを活用して、一部の幕臣らが条約による対等な国際秩序を念頭に積極開国論をうちだしていたことや、横浜港の輸出入額が多かったこと、貿易が大幅な輸出超過だったことに気づかせる。 また、輸出入品目と貿易相手国を確認しておく。	【知識・技能】 日米和親条約・日米修好通商条約の内容をまとめることができ、開港後の貿易の状況について理解している。 【思考・判断・表現】 黒船来航について、史料・図版を活用しながら多面的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日米修好通商条約と南京条約の共通点と相違点について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	3
	『幕末政局と社会変動 公武合体，尊王攘夷などの動きに着目して，権力構造の変化を考え、従来の政治体制を改めて新たに統一政府をつくろうという気運が高まった要因を考える。	教科書の図版や写真を活用して、尊王攘夷論の高まりと尊王攘夷運動の意義について着目させ、運動の推移と、社会不安の背景や影響に着目させる。	【知識・技能】 大政奉還、王政復古までの政局と社会の動きについてまとめることができる。 【思考・判断・表現】 日本の近代化と諸外国の近代化の共通点と相違点について、考察し適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 幕末の脱藩士や草莽の志士の活動と，明治以降の制度改革とのつながりについて主体的に追究しようとしている。	○	○	○	3
	『新政府の成立と諸改革』 明治新政府が旧幕府勢力を退けながら，天皇のもとでの国民国家をめざした過程を考え、明治新政府の制度改革とその影響を考える。	教科書の史料とコラムを活用して明治新政府が発表した方針と対民衆政策を確認し、今日まで続く年号の制度や「解放令」後も残った差別意識に着目させる。	【知識・技能】 明治新政府が変えようとしたもの、変えなかったものについてまとめることができる。 【思考・判断・表現】 地券の発行によって確定した内容と人々への影響について、考察し適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 フランスと日本ですすんだ身分制の廃止について主体的に追究しようとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
	『富国強兵と文明開化』 徴兵制の目的と問題点、殖産興業政策の展開を考え、文明開化や教育制度改革による近代化と問題点を考える。	教科書の図版とコラムを活用して、徴兵制の問題点や、殖産興業政策・新政府の宗教政策における政府のねらいに着目させる。	【知識・技能】 殖産興業政策のねらい、展開について理解している。文明開化の内実、人々の反応について理解している。 【思考・判断・表現】 欧米における徴兵制や学校教育開始の実情について、考察し適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 明六社の人物が文明開化をどのようにとらえていたかについて主体的に追究しようとしている。	○	○	○	3
	『文明化と向き合う東アジア諸国』 19世紀後半の東アジア各国にとって、欧米諸国の生活・文化がもつ意味を考え、欧米諸国の生活・文化に対する東アジア各国の対応の仕方を考える。	教科書の資料を活用して、19世紀後半の東アジア各国のなかでも欧米の生活・文化に対する考え方が異なる点に着目させる。	【知識・技能】 日本と朝鮮における暦の変更がもつ意味と生活への影響について理解している。西欧化にともなう服装の変化に関する日本と清の人物が述べた意見について理解している。 【思考・判断・表現】 欧米諸国の生活・文化に対する日本・朝鮮・清の対応の共通点と相違点について、考察し適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 欧米諸国の生活・文化の流入への対応について、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	3
	『近代的な国際関係と国境・領土の確定』 明治初期の対欧米外交交渉と、近隣諸国に対する外交方針を考え、領土画定がおこなわれた経緯と影響を考える。	教科書の史料・図版などを活用して、植民地化された地域の実情や朝鮮に対する日本の対応、近代化をめぐるアジアのさまざまな動きに着目させる。	【知識・技能】 沿革総節項の歴史的意義について理解している。明治初期の国境について理解している。 【思考・判断・表現】 国境の画定と国民国家の形成について、多面的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本の国境画定を沖縄やアイヌの人々の視点からとらえなおし，追究しようとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
2学期	『自由民権運動の高まり』 国民の政治的関心が高揚した経緯と影響を考え、自由民権運動がゆきづまった背景を考える。	教科書の図版や表を活用し、自由民権運動の高まりに対する政府の動きや、女子の高等教育がはじまり，西洋の知識を吸収するなかで生じた意識の変化，民権派が結成した政党の特徴に着目させる。	【知識・技能】 自由民権運動の始まりから立憲国家成立に至る過程をまとめることができ、自由民権運動に関連した主な事件の位置と内容を理解している。 【思考・判断・表現】 天賦人権思想をめぐる日本、アメリカ、フランスの表現方法について、史料を活用しながら多面的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自由民権運動に参加した人々がどのような意識で参加し、どのような社会をめざしていたかについて追究しようとしている。	○	○	○	3
	『後発の国民国家・日本』 日本の国民国家形成の背景を考え、国民国家形成の展開と人々の動きを考える。	教科書の図版を活用し、対外的な緊張感の高まりが国民国家形成の背景の一つであることに気づかせ、均質な国家をめざすために教育が重要な意味をもったことを確認させる。	【知識・技能】 日本の国民国家形成過程について、まとめることができる。 【思考・判断・表現】 明治政府がめざした国民国家と自由民権運動がめざした国家像との違いについて考察し、適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本の国民国家形成と欧米諸国の国民国家形成との違いについて追究しようとしている。	○	○	○	3
	『国民党事件』 国民党の要求とその背景を考え、困民党の要求が民権派の多くから支持されなかった理由を考える。	教科書のグラフ・図版を活用し、松方デフレの影響で米・生糸価格が下落していることに着目させ、困民党に向けられた視線がどのようなものかに気づかせる。	【知識・技能】 自由民権運動の激化事件について、まとめることができる。 【思考・判断・表現】 困民党に参加した人々と民権派との意識の違いについて、多面的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 国民国家形成のなか，各国で抑圧された人々について、追究しようとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
	『立憲国家の成立』 大日本帝国憲法制定の経緯と憲法の特色を考え、立憲君主制を規定した憲法が及ぼす影響と議会のあり方を考える。	教科書の図版やコラムを活用し、プロイセンの憲法が日本の憲法案に影響を与えていることに気づかせ、天皇と帝国憲法の本質を風刺する表現があったこと、当時の日本が強い中央集権体制のもとでの地方自治であったことを確認させる。	【知識・技能】 私擬憲法の独創性を理解し、「大日本帝国憲法」の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 日本とオスマン帝国の政治体制について、史料を活用しながら多面的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 大日本帝国憲法と現行の日本国憲法を比較し、共通点・相違点について、追究しようとしている。	○	○	○	3
	『議場が語る立憲制』 イギリス・ドイツの議会政治・政治体制の特徴を考え、日本が意識した議会政治・政治体制のあり方を考える。	教科書の大間の資料を活用し、日本が帝国議会開設にあたってイギリスやドイツを参考にしながらも，独自性も存在していたことに気づかせる。	【知識・技能】 イギリス議会と日本の大隈重信が主張する国会の共通点と相違点をまとめることができ、イツ帝国議会と日本の帝国議会の共通点と相違点をまとめることができる。 【思考・判断・表現】 イギリスに影響を受けた議会の想像図と、実際に開設された日本の帝国議会を比較し、多面的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 女性の参政権と性別役割分業について、追求しようとしている。	○	○	○	3
	『条約改正』 国内体制の確立、英露対立などの国際情勢によって進展した条約改正交渉を考え、アジア諸国との関係から19世紀末の日本でしばしばみられるようになる思想を考える。	教科書の図版や史料を活用し、日本の欧化政策と、その背景にある考え方を確認し、領事裁判権の撤廃が切実な問題となっていることに気づかせ、脱亜入欧の考え方を確認させる。	【知識・技能】 条約改正交渉の経過と結果について理解している。 【思考・判断・表現】 日本の欧化政策の具体的な内容と、それに対する欧米諸国の認識について、考察し、適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 急速な文明の進歩のなかで生じた社会矛盾について、現代の社会問題の解決に生かそうとしている。	○	○	○	3
	『日清戦争』 朝鮮をめぐる対立と日清戦争のつながりを考え、日清戦争後の列強による中国分割，日本国内の意識の変化を考える。	教科書の図版・地図・図を活用し、日清戦争の展開を確認させ、日本の領土となった台湾で激しい抵抗があったことに着目させ、日本初の政党内閣成立前後の政党の変遷を確認させる。	【知識・技能】 日清戦争が朝鮮をめぐる対立からはじまり，戦場の多くは朝鮮であったことを理解している。 【思考・判断・表現】 日本人の「文明国の国民」という自己認識と教育との関連について、史料を活用しながら多面的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本と台湾の歴史について主体的に追究しようとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
3学期	『日露戦争から韓国併合へ』 日清戦争後の清と日本の動向を考え、日露戦争後の日本とアジア諸地域の動向を考える。	教科書の図版・地図・写真を活用し、19世紀末、中国が分割されたことに着目させ、日露戦争で日本が帝国主義国家となったことに気づかせ、日本の勝利がアジアの勝利ととらえられたが、やがて、失望に変わったことに着目させる。	【知識・技能】 日清戦争後の中国の状況について、まとめることができる。 【思考・判断・表現】 日露戦争での日本の勝利がアジア諸地域に与えた影響について、考察し、適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日露戦争について理解し、日露戦争後の日本の動向を追究しようとしている。	○	○	○	3
	『日本の産業革命と社会問題』 日本の産業革命の特徴と、世界経済における日本の位置の変化を考え、産業革命と資本主義化がもたらした問題を考える。	教科書の写真・図版・グラフを活用し、機械化された産業分野を確認し、スラムとよばれる地域でゾのような人々が生活していたのかに着目させ、製糸職工の労働環境に着目させる。	【知識・技能】 大規模工場の設立と機械化が、日本の貿易構造を変化させていった状況について理解している。 【思考・判断・表現】 産業革命の進展のなかで、政府が何を優先させたのかについて、考察し、適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 産業革命によって生じた問題と、現代の社会問題との共通点・相違点について、追究しようとしている。	○	○	○	3
	『第一次世界大戦』 第一次世界大戦の展開を考え、戦争がヨーロッパから世界に拡大する過程を考える。	教科書の図版・地図・写真を活用し、総力戦のもとで女性の社会進出がすすんだことに気づかせ、二つの戦線で戦闘が膠着し、大戦が短期で終わらなかったことに気づかせ、この大戦で使用された新兵器に着目させ、総力戦のもとで高まった国家への帰属意識や植民地の民族意識の高まりに気づかせる。	【知識・技能】 第一次世界大戦の展開とヨーロッパの戦争が世界に拡大したことを理解し、第一次世界大戦の原因となった帝国主義政策の対立について理解している。 【思考・判断・表現】 第一次世界大戦が国家体制やヨーロッパ以外の地域に与えた影響，戦争の性格について、考察し、適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 大戦中の日本の動向について、追究しようとしている。	○	○	○	3
	『ロシア革命とシベリア出兵』 ロシア革命の展開とソ連の成立の歴史的意義を考え、ロシア革命に対する周辺国の対応を考える。	教科書の図版・写真を活用し、戦争がロシア革命の引き金となったことに気づかせ、コミンテルンの活動と共産主義の拡大について確認させる。	【知識・技能】 大戦中におきたロシア革命の展開と周辺国の対応をまとめることができる。 【思考・判断・表現】 革命をまおいたロシアの国家体制や世界初の社会主義国が成立した背景とその意義について、多面的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 革命における大衆と指導者の役割について追究しようとしている。	○	○	○	3
	『大戦景気と米騒動』 大戦景気がもたらした社会構造の変化を考え、デモクラシー思想の浸透と政党の動向を考える。	教科書のグラフ・図版・史料を活用し、大戦景気の時期の変化が他の時期と比べて大きいことに気づかせ、大戦景気とよばれた時期に困窮する人たちがいたことに気づかせ、民本主義とよばれる思想を確認させる。	【知識・技能】 第一次世界大戦がもたらした日本経済の変化について、まとめることができる。 【思考・判断・表現】 第一次世界大戦により好景気となった日本とアメリカの共通点と相違点について、多面的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 大正デモクラシーが社会に与えた影響と限界について追究しようとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
						合計	70